今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.61
白井運輸株式会社 様

物流維持に欠かせない「従業員の待遇改善」 将来を見据えてより良い職場環境構築へ

千葉県船橋市に本社を構える白井運輸㈱（伊藤裕司代表取締役）は、これまで六本木ヒルズや東京スカイツリーなどの建設資材・機材輸送を手がけてきたほか、紙パルプの運搬も行っている運送会社である。

令和２年に４代目社長に就任した伊藤社長は、トラック運送業界の 10 年後を見据えながら、時代に則した形での事業展開を進めるとともに、長年同社で働き続けてきたドライバーの頑張りに報いるべく、ドライバーの待遇改善にも積極的に取り組んでいる。

同社が主力とする、建設資材・機材輸送用の大型ユニック車の前に立つ伊藤社長

■荷主と連携しドライバーの拘束時間削減に注力 輸送コスト軽減にも繋げる

白井運輸の歴史は、昭和 18 年７月に創業者である白井巌氏が個人事業として創業したことに始まる。27 年に東京都江東区に白井運輸㈱を設立したのち、40 年には本社営業所を江戸川区に移転。その後、51 年に本社営業所を現在地（船橋市潮見町）に移転した。現在同社では船橋の本社営業所のほか、埼玉県川越市に川越営業所を構えており、２拠点体制を採っている。

さて、同社における事故防止対策としては、毎月１日に「１日会」と呼ばれる班長会を開催。本社営業所に４人、川越営業所には２人の班長がおり、各班長がドライバーに対して「事故を未然に防ぐためにはどのようにしたらよいか」などを質問。答えをドライバーに考えさせるという「対話型」で行うようにしている。ドライバーから問題点が上がってきた際には、会社として改善できる範囲で対応するようにしている。「１日会」を始める以前は、ドライバーがなかなか一堂に会する機会がなく、安全教育の機会を設定するのに苦心した。しかし、伊藤社長が「安全はすべてに優先する」と、２年前に毎月１日に開催することを決めてからは、ドライバーの出席率が高まったほか、配車担当者がドライバーの乗務予定を調整しやすくなった。

同社では、建設現場などで一時的に使用する仮設材の輸送も手がけている。仮設材輸送に際しては荷崩れを防ぐ観点から、「１日会」では YouTube にアップされている事故事例をドライバーに見てもらい、「なぜ事故が起こったのか」について話し合うようにしている。

一方で、かつては仮設材輸送の際の過積載が問題になったケースも少なからずみられたことから、同社ではドライバーが仮設材ごとの単位重量をしっかりと把握し、過積載の未然防止に繋げている。また、近年はスペースがかさばる枠組足場に代わり、かさばらない次世代足場の活用が増えており、積載運搬効率の向上に伴い、運搬車両台数の削減、ひいては輸送コストの低減にも結び付いている。

一方で、「物流の 2024 年問題」に関する影響については、同社の主力荷主企業は以前から物流危機に対する理解が深かったこともあり、荷主企業と協力して荷待ち時間や積み降ろし時間の削減に取り組んできていた。同荷主企業に関する輸送では、ドライバーの待機料のほか、積込み時間が２時間半を超える場合に発生する割増料金が収受できており、荷待ち時間や積み降ろし時間の削減に取り組むことで、荷主企業にとっても輸送コスト軽減に繋がるという効果が期待できる。また、有名建築物の建設資材・機材輸送を担い、同社の輸送品質が荷主企業から評価されてきたこともあり、荷主企業から収受する運賃・料金の水準は充分なレベルに達しているという。

伊藤　裕司
代表取締役

「私から荷主企業の担当者に対して『2024 年問題』への対応について説明する機会も多くありましたが、荷主企業の理解が深く、非常にありがたいと感じています。当社としては、荷主企業からお寄せいただいている信頼に全力でお応えすべく、車両台数を増強したり、協力運送会社との連携を強化するなど、引き続き輸送品質向上に努めます」（伊藤社長）

同社には 30 人のドライバーが在籍しているが、従業員定着率が良いことが同社の特徴となっている。同社のドライバーの平均年齢は 52 歳で、定年（63 歳）を過ぎた 67 歳のドライバーが、今でも大型平ボデー車に乗務し活躍している。同社の定着率の良さについて伊藤社長に伺うと、「当社の輸送は毎日決まった場所に配送するルート配送ではなく、毎日配送先が変わるため、配送現場で様々な人たちとの出会いがあります。また、積載物も毎日変わるため、『どのように積載したら荷崩れしにくいか』と日々考える楽しさもあると思います。日々の輸送を通じて勉強し、スキルを磨く面白さに気付いたドライバーが多いことも、当社で長年働いてくれる理由になっているのではないでしょうか」と答えた。

また、同社では従業員の定着率を高めるねらいで、以前実施していた、勤続20年以上の従業員に旅行費用を補助し、リフレッシュ休暇取得を促進する「永年勤続表彰」を復活させており、今後は

同社の車両には、飲料水や食料などからなる「防災安心セット」を搭載し、災害に備えている

大型ユニック車に建設資材を積載。積載にあたっては荷崩れを防ぐために、適切な積み付けや固縛が求められる

伊藤社長は従業員との「対話」を重視。従業員からの意見を活かしながら、職場環境改善に取り組んでいる

勤続 20 年だけではなく勤続 30 年のタイミングでも表彰を行うことを視野に入れている。さらに、退職金制度も充実させるなど、長年同社で活躍する従業員の頑張りに報いるための様々な施策を取り入れている。

一方で、同社に在籍しているドライバーの中で、最も若いのは 35 歳のドライバーだという。同社のドライバーには、大型自動車運転免許のほか、玉掛作業者の資格なども必要とされる。これらの免許や資格を保持していない若年層や業界未経験者に対しては、同社の全額費用負担で取得させる制度があるものの、新人ドライバーの獲得には苦労しているという。

「建設資材・機材輸送では、雨や雪の日でも屋外での作業が求められるため、若年層の方や業界未経験の方にとっては非常にハードルが高いと思われるようです。当社としては、『建設資材・機材輸送を通じて、現場の環境に応じた様々な経験を積むことができ、自身のスキルアップに繋がる』ことを売りにしながら、採用活動に取り組んでいます」（同）

東京スカイツリー建設中の平成 23 年３月 11 日に発生した東日本大震災では、公共交通機関が停止したことから各地で猛烈な渋滞が発生。建設現場の墨田区押上から本社営業所まで一般道で３時間半もかけて帰ってきたり、本社営業所まで戻ることが困難なドライバーがいた。

同社ではこうした事態を受けて、地震や大雨・大雪などで車両が立ち往生した場合に備えて、「防災安心セット」をトラックや営業車など全車両に搭載。飲料水や食料、簡易トイレ、アルミブランケットなどを常に車載し、緊急時にも対応できるようにした。

「いつ災害が発生するか分かりませんが、そうした時においても従業員の安全は何よりも最優先に考えなければなりません。当社では、災害発生時においても安心して対応できるようにと、防災安心セットの導入に踏み切りました」（同）

さて、伊藤社長は同社の４代目社長であるが、のちに３代目社長を務める人物に「うちの会社で一緒に働かないか」と誘われたのを契機に、昭和 61 年に 21 歳で入社。入社当時は総務・経理の仕事に就いていたが、入社２年後に営業職に移ってからは営業畑を長く歩んできた。その後しばらくしてから３代目が社長に就任し、伊藤社長は３代目社長を支える副社長として仕事を続けてきたが、ある日３代目社長が「私は数年後に引退するので、今後のことを考えてほしい」と告げてきた。伊藤社長は懸命に３代目社長を引き留めたものの、令和２年に３代目社長が退職。そこで、長年営業職を務め、取引先とも顔が通じる伊藤社長が４代目社長に就任した。

伊藤社長が社長に就任した時は、まさに新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大していた時期でもあった。工事現場では多くの人が働き、「３密」になりやすい。クラスター発生を防ぐために工事を中断する現場もあったことから、同社の輸送量は大きく減少。伊藤社長は就任直後から、従業員をこの経営難からどう守ればいいのか苦労したという。厳しい経営環境下においても、伊藤社長は決して従業員削減に踏み切らずに、従業員とともに耐えた。その後、コロナ禍が落ち着いてきたことで輸送量が回復したのに加え、この時期に主要荷主企業から収受する運賃が上がったことで、同社の売上はコロナ禍前を上回っているという。

「『物流を守るためには、現場で働いているドライバーの待遇改善が大事である』ことを主要荷主企業は理解しており、荷主企業の担当者からは『運賃を上げたことで、どれだけ貴社のドライバーに還元できているのか』と聞かれることもあります。当社としては、当社の輸送を持続可能なものとするために、荷主企業から頂戴した運賃・料金を原資にしながら、引き続きドライバーの待遇改善に繋げていくとともに、ドライバーから様々な意見を聞きながら、より良い職場環境を築き上げていきたいと考えています」（同）

最後に、今後に向けた同社の取り組みについて、伊藤社長に伺った。

「10 年後にはトラック運送の形が大きく変わり、それに対応していくためには情報を積極的に取り入れていかなければなりません。私は、周りの方が支えて下さったからこそ、現在の私があると感じています。今後も周りの方々から貴重なご意見を伺い、軌道修正を重ねながら、事業を継続していかなければならないと考えています」（同）

ホットにゅーす

■ 60 歳を前に二輪免許を取得 自慢の大型バイクで県内を駆ける

伊藤社長は今年９月 11 日に 60 歳を迎えた。伊藤社長は、「いまだからできることは何か」と熟考を重ねた結果、「大きなバイクに乗ることができるのは、体力がある今のうちだ」と、昨年６月に普通二輪免許を取得するとともに、250cc バイクを購入。今年に入ると大型二輪免許を取得し、２月に発売したばかりのホンダ「CBR600RR」を手に入れた。

「乗用車とバイクでは運転者の目線が大きく異なるため、バイクに乗るようになってから、自動車の運転の仕方も大きく変わりました。バイクではもっぱら１人で、館山や勝浦などにツーリングに出かけています」（同）

自慢の愛車である、スーパースポーツモデルのホンダ「CBR600RR」と伊藤社長

企業プロフィール

白井運輸株式会社

代表取締役　伊藤　裕司
本社　千葉県船橋市潮見町 18-2
従業員　48 人（うちドライバー 30 人）
台数　33 台